

## 第73回 経営協議会 議事要録

日 時 令和2年10月29日(木) 13時30分～14時25分

委 員 澤 和樹 学長【議長】  
安良岡章夫 理事・副学長  
日比野克彦 美術学部長  
杉本和寛 音楽学部長  
桐山孝司 大学院映像研究科長  
遠山敦子 委員、福井俊彦 委員、滝 久雄 委員  
谷口維紹 委員、富田哲郎 委員、二宮雅也 委員

陪 席 浜田健一郎 監事、上田良一 監事  
清水泰博 理事・副学長、麻生和子 理事、松岡正和 理事・副学長・事務局長  
岡本美津子 副学長、藪内佐斗司 副学長、八反田弘 副学長  
佐野 靖 学長特命(社会連携担当)  
桂英史 附属図書館長  
秋元雄史 大学美術館長  
河野文昭 演奏芸術センター長

欠席者 熊倉純子 大学院国際芸術創造研究科長  
福本ともみ 委員  
国谷裕子 理事  
箭内道彦 学長特命(広報・ブランディング戦略担当)

○ 議事に先立ち、経営協議会の滝久雄委員が文化功労者に選ばれた旨の報告と議長から新たに経営協議会委員及び陪席者となった者の紹介があった。

- ・ 委員：杉本和寛 音楽学部長
- ・ 陪席者：麻生和子 理事(学長特命担当)、上田良一 監事

### 議題

1. 令和2年度補正予算編成について  
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。
2. 東京藝術大学職員給与規則等の一部を改正する規則の制定について(案)  
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。

### 報告及び連絡事項

1. 令和3年度概算要求の概要について  
標記のことについて、荻原戦略企画課長から資料に基づき報告があった。
2. 令和元事業年度財務諸表の承認について  
標記のことについて、荻原戦略企画課長から資料に基づき報告があった。
3. 剰余金の翌事業年度への繰越しに係る承認について  
標記のことについて、荻原戦略企画課長から資料に基づき報告があった。

4. 国立大学法人ガバナンス・コードに係る東京藝術大学の適合状況等の報告について  
標記のことについて、松岡理事から資料に基づき報告があった。

5. その他

・本学の取組みについて

○ 澤学長から、芸術文化における本学の近況について報告があった。

(本学の取り組み)

- ・ 2020/6 新型コロナウイルス感染症緊急対策「若手芸術家支援基金」の設置
- ・ 2020/8 学長と語ろうコンサート「和樹の部屋」特別篇を開催
- ・ 2020/9 「バーチャル藝祭」(オンライン上の藝祭)開催
- ・ 2020/9 「上野トイレミュージアム」がオープン

(受賞等)

- ・ 2020/9 ヨハネス・ブラームス国際コンクールで声楽科卒の森野美咲さん優勝
- ・ 2020/9 映像研究科 黒沢清教授 監督作品「スパイの妻」ヴェネチア国際映画祭銀獅子賞(監督賞)受賞
- ・ 2020/10 Tokyo Midtown Award2020にてデザイン専攻若田勇輔さんがグランプリ受賞

※ご助言、ご提言等

○文化に対して税金を使う仕組みは、国民的にも文化に対する価値観を醸成する意味からしても大切なのではないか。

○昨今のコロナ禍において、芸術のこれからのあり方、表現のあり方(これからの芸術教育又は芸術の発信がどういう形であるべきなのか)や、芸術表現の自由を今後どうあるべきかを検討していく必要があるのではないか。

○地方と東京(分散と集中)の問題は芸術分野でも大きな課題になってくるかと思うが、中々地方の方が東京に来る機会が減っているという状況がある。芸大として学生や卒業生への様々な活動の支援がなされているが、地方においても、今回の藝祭の運営の仕方(リアルやバーチャル等の方法があるが)については芸大の成果を地方で見ていただくには1つの方法として非常に有効であり、新しい芸大の役割が見えてきているのではないか。

○コロナ禍において学生の休学が多い状況となっており、学生にとっては人生の出発点において休学を選択することにより、将来への希望が中々見えない状況になる場合が多いと思われるが、教育面において将来の希望を持たせるような何らかの工夫を大学としても考えながらアドバイスしていくという姿勢が今まで以上に大事ではないか

○コロナの状況において、オンラインの活用、サイバー空間の活用は1つの大きな方向性であり、実際の相当な成果が上がっていると思われるが、やはり実際には人と人との対面、心の通い合う対話をなくして研究の質・教育効果が上がりにくいということもあるのではないか。芸大においても人と人との対話の重要性についてどのように工夫をしていくか検討していただきたい。

○コロナ禍においては、オンラインでの場の提供が非常に有効であると感じており、文化・芸術関係が身近にあるという環境を提供することは非常に大事ではないか。また、そういった意味で芸大のデジタルツインプロジェクトには非常に期待している。